

在学生・修了生インタビュー

※学年・所属先については、令和3年11月末時点での情報です。

林 義之さん HBMS 2年生 株式会社八天堂 取締役常務

同期との農福連携事業で新たな商品も開発



三原市とHBMSが連携して行っていた地域人材塾「浮城塾」の1期生として学んだ経験があり、その後HBMSの先生から声をかけていただいたのが志望のきっかけです。ちょうど弊社の新規事業として、農福連携をキーワードとしたビジネスモデル化の必要性を感じており、このテーマを元に、学びとコネクションを築きたいと考えていました。基本的に農福連携ビジネスに関連すると思われる科目を中心に履修してきたので、そこで得たアカデミックな知識をビジネスのアイデアに繋げることができます。学ぶ習慣やタイムマネジメント、思考方法もより深まりました。人とご縁も大きく、HBMSで出会ったパートナーと、竹原市のぶどう園で農福連携の取り組みを立ち上げ、そこで育てられたぶどうを使った新たな商品も開発しました。それをどうやってプランディングし告知をするなど、まさにこれから大学院で学んだ知識を活かしていくことが楽しみもあります。また、副次的な効果として、父親である私が自宅で勉強している姿を見た子どもたちが、自ら勉強するようになったことも嬉しい変化です。

太刀掛 理恵さん HBMS 2年生 株式会社広島銀行 船舶ファイナンス部

変わりゆく造船海運業に他業種の取り組み提案

広島銀行に入行して15年が経ちました。そのうち約10年間、銀行業務を通じて瀬戸内の基幹産業である造船海運業の発展に向けて取り組んできました。近年、造船海運業は外部環境が大きく変化しており、多様化するニーズにいかに応えていけるかが、今後のポイントになるとを考えています。そのような中、様々な経営課題を抱えている取引先にとって、寄り添えるパートナーになるため、様々な知識や実践力を身に付けたいと思いHBMSへ入学しました。HBMSでは、他業種で取り組まれているデジタル化や事務の効率化等を学び、得た知識を造船海運業の取引先への提案に繋げることができます。ひろぎんホールディングスは「お客様に寄り添い、信頼される〈地域総合サービスグループ〉として、地域社会の豊かな未来の創造に貢献します」を経営ビジョンとして掲げていますので、グループ会社である広島銀行の中で新しいチャレンジしながら、地域社会に貢献できるようになります。何事にも臆することなく、しっかりと自分の意思を持ち、積極的に行動することで、どんどん違う世界を開けていくやりがいを、今までに感じています。

伊藤 大悟さん HBMS 2年生 社会福祉法人 宗越福祉会 理事

民間企業と力合わせ 誰も取り残さない環境作り



20歳の頃恩師にMBA取得を勧められたのですが、福祉関係者は縁遠いと当時は思っていました。その後、2013年から法人運営に携わるようになり、経営の難しさを痛感。福祉にも経営力が必要と考え、広島でもMBA取得ができると分かりHBMSにエントリーしました。入学して1年半、私の中で「No one left behind(誰一人として取り残さない)」というキーワードが大きな学びの一つになっています。福祉においてもこぼれ落ちていく人はいます。そこで誰も取り残さない環境を作り、ソーシャルビジネスとして持続していくには、市町村との連携や民間企業の力が必要だと学びました。そして、それは実現できるのだということを実感できました。HBMSで学びながら、ここで出会った同級生と農福連携事業を起させたことも、大きな成果です。また、コロナ禍においてオンライン1期生として始まった中、先生方は試行錯誤をしながら教えてくださっています。オンラインのメリットとして、遠方からでも授業に参加しやすい、打ち合わせや交流が簡単にできるなど、良い面がたくさんあり、時間調整がしやすい分、家族の理解も得やすくなつたと思います。

新本 知子さん HBMS 1年生 地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 看護部

看護を可視化 イノベーションを生み出す



私は、2015年に看護師長に昇進し、看護管理を実践してきました。昨今、病院経営を意識した実践が強く求められるようになったと強く感じています。医療・看護の世界だけでなく、もっと視野を広げ、異業種の方との交流や経営のノウハウを直に学べる場所がないかを模索していたところHBMSの存在を知り、「これだ!」と思いました。私は30年間、医療・看護一筋で医療の世界しか知りません。まだ、2クオーターしか終わっていますが、全てが新鮮でどの科目も多くの学びに溢れています。将来的には看護を可視化したいと考えているので、新たな風を吹き込むためにも、利害関係者を説得する力が必要。HBMSは異業種の集まりであり、そういった医療を知らない人へ向けての分かりやすくかつ説得力のあるプレゼンをしていく能力や、資料のまとめ方はとても勉強になっています。仕事でもプレゼンをする機会が多く、誰が見ても理解できることを意識した資料作りに取り組むようになりました。職場からのサポートや周囲の方からの応援に助けられている分、HBMSでの学びを還元できるよう尽力していきたいです。

松本 優さん HBMS 1年生 株式会社ムラカワ 業務部 兼 品質保証課 課長

学びを塗装業界の地位向上に活かしたい

塗装会社で、お客様と現場の橋渡しをする業務部と、品質向上の取り組みを行う品質保証課での仕事を兼任しています。数年前からは、会社の経営戦略策定にも参加するようになりました。もっと幅広い知識が必要だと感じていました。そんな時、HBMSの4期生でもある弊社社長に背中を押してもらい、入学を決めました。授業では、アカウンティング、ファシリテーション、経営戦略、人的資源管理など、どれも日頃の仕事に身近で実務に直結する内容を研究しています。大人になり社会に出ると、なかなかゼロベースで学び直しができる機会はありませんが、HBMSで学ぶことで毎日がとても充実しており、修了後もこの学ぶ姿勢と習慣は持ち続けたいと思っています。弊社は「塗装の問題を解決する」という経営理念があり、塗装そのものだけではなく、塗装に関連するあらゆることの問題解決にも力を入れています。まだ構想段階ですが、AIなどを組み合わせた新規事業に注目することで、塗装業界の技術や品質向上に寄与し、塗装業界の地位を高めることに繋げていけたらと考えています。日本一の塗装会社へと発展するべく、身につけたスキルを活かしていきたいです。



井上 多恵さん HBMS 1年生 株式会社ジェイ・エム・エス 薬事・品質保証本部 薬事室 管理職

支援行動取り入れ 職場の信頼関係を構築



総合医療機器メーカーで責任を持つ立場を任され、リーダーシップと事業戦略の専門的な知識や、会社の力を最大限に活かす方法論を実践で学びたいと思っていたなか、会社の卒業生からふとしたきっかけでHBMSを紹介してもらいました。まだ入学して半年しか経っていないのですが、よい影響をたくさん受けていると実感しています。例えば、以前は会議をできるだけ早く終わらせるのに注力していましたが、今はみんなの意見を吸い上げ、どんな意見も拾うことを大切にしています。会社の同僚、後輩ともファシリテーション技術を共有しワークショップを開催することで、お互いの信頼関係の構築や意識改革にも繋がりました。ビジネスの場でも活躍されていた先生方のアドバイスは、専門知識だけでなく、実践で活かせる授業であり、とても心に響いています。そういう先生方に出会えたことは、私の財産。今後は、私自身の強みを見出して、会社の利益性を考慮した戦略提案、広島出身の優秀な人材確保、そしてHBMS卒業生を講師にしたネットワーク起業など、新しい目標を掲げていきたいです。